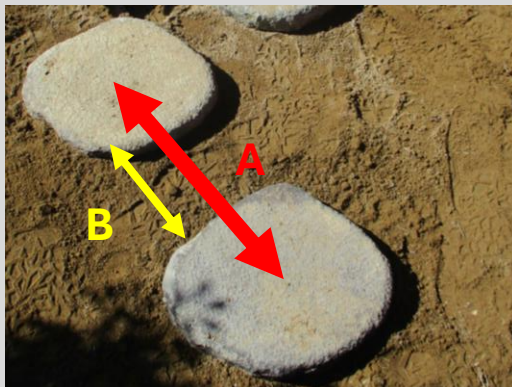


今回の実習内容は「飛石の施工」です。飛石は茶庭（露地）で使われるようになったと言われており、そこにはあの茶人「千利休」が関わっていると言われています。そんな、飛石の由来や歴史を学びながら、いざ施工！



石と石の距離(A)

→わたり

石と石の間(B)

→あいば

石の高さ

→ちり

説明を聞いていざ実践してみますが、なかなかうまくいきません。石は重く最大20キロ以上！なれない作業と石の重さに悪戦苦闘しながら行いました。

飛石の打ち方に関しては、千利休は「わたりを六分、景四分」その弟子の古田織部は「わたり四分、景六分」と美しさか実用かでどちらを重視するか考えがわかるほど簡単なようで難しい！まずは基本を身に付けてほしいと思います。



美しく仕上げるには小さなコツや、技術・体力も必要です。

造園の奥深さを感じながらいろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。